

第2日 1月30日(土) 1部

10 小・中学校学習指導部会	部会テーマ		「見方・考え方」を働かせることで広がる授業改善		
内 容	新学習指導要領には、「授業改善」という言葉が多く登場する。今年度、当センターでは「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の中で、特に「深い学び」の鍵とされる「見方・考え方」を働かせるとはどのようなことかについて調査研究を行った。そこから見えるポイントを中心に実践発表を交え、「授業改善」について考える。				
指導助言者	宇都宮大学大学院	人見 久城	企画・会場係	総合教育センター	武井 玲子
記 録 係	総合教育センター	吉原 健一	受 付 係	総合教育センター	庄司 由夏
機 器 係	総合教育センター	大山 晃	機 器 係	総合教育センター	高橋 徹

発表**「見方・考え方」を働かせるとは？**

総合教育センター研究調査部 武井 玲子

当センターでは、今年度「『見方・考え方』を働かせる」とはどのようなことかについて調査研究を行った。その成果として、小・中学校全教科について、授業場面を例に各教科における「見方・考え方」を働かせるとはどのようなことか具体的に解説するパンフレットを作成した。その概要を紹介する。

実践発表**「理科の見方・考え方」を意識した授業展開について**

～授業における教師の働きかけ～

真岡市立真岡東小学校 澤村 慎一

児童が自ら「理科の見方・考え方」を働かせる授業を展開するために、学習活動ごとに見方・考え方を示した「授業支援シート」を作成した。そのシートを活用し、授業の質に向上がみられた実践事例について報告する。

指導助言

宇都宮大学大学院教育学研究科 人見 久城